

21世紀に必要な力を育むキャリア教育（総合的な学習の時間）の在り方

～「意志ある学び」を引き出すプロジェクト学習の取り組みを通して～

所属校 飯塚市立穎田中学校
職・氏名 教諭 日高 元成

1 研究主題・研究副題の意味

(1) 21世紀に必要な力とは

「21世紀に必要な力」とは、変化の激しいこれからの社会の中で、主体的・創造的に生きていくために必要な力であり、具体的には次のような力である。

社会の中で他者との関わりに必要な人間関係形成能力
・表現力 ・コミュニケーション能力
自分の未来を創造するための将来設計能力
・計画力 ・実行力
あふれる情報の中から自ら必要とする情報を収集、選択、活用する情報活用能力
・情報収集能力・情報探索能力・情報活用能力
適切な判断の基、自ら決断し行動に移すことができる、意志決定能力
・課題発見能力・課題解決能力・選択能力

資料1 「21世紀に必要な力」

(2) 本校のキャリア教育とは

本校の「キャリア教育」とは、将来に夢や希望を持たせ、自らの生き方を考えさせると共に、学習意欲の向上と、望ましい勤労観・職業観の育成をめざす教育である。本校のキャリア教育の目標は資料2に示す通りである。この目標を達成していく中で「21世紀に必要な力」を育成していく。

働くことの大切さ・喜び・生きがいを知らせる。
職業の果たす役割・重要性・必要性を知らせる。
自分の将来のことを考え、夢・目標を持たせる。
学ぶことの意義を理解させる。

資料2 本校のキャリア教育の目標

(3) 「意志ある学び」とは

「意志ある学び」とは、与えられた学習からの脱皮を目指す学習であり、生徒自らが課題を発見し、生徒自らが意欲的に課題解決に取り組む学習である。「意志ある学び」を引き出すにはモチベーション（やる気、刺激、動機）と、ミッション（使命感、任務、自分の役割）を強く持たせることが重要である。

(4) 「プロジェクト学習」とは

プロジェクト学習とは、生徒たちが自らゴールに向かい戦略を立て、必要な情報を収集しながら一つ一つのフェーズ（段階・局面）を乗り越えることで課題解決力、情報活用能力、表現力などを育成する学習である。

プロジェクト学習では、学習全体のプランであるプロジェクトを立て、さらに、細かな学習プランであるフェーズを展開していく。各フェーズでどんな力が身につくのかを明確にし、生徒自身の課題解決へのモチベーションとミッションを高めながら、学習を進めていく。

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

変化の激しいこれからの社会の中で、主体的・創造的に生きていくためには自ら課題を見つけ、必要な情報を収集し、課題解決に向けて他者と協力しながら行動する力が必要となる。このことから「21世紀に必要な力」を育成することが必要であると考えられる。

(2) 総合的な学習の時間」のねらいから

「総合的な学習の時間」においては、課題解決能力、学び方や考え方、主体的・創造的な態度、生き方の育成をねらいとする。本校がねらいとする、キャリア教育を通して育む「21世紀に必要な力」は、この「総合的な学習の時間」で育成する力と密接に関連している。このことから、「21世紀に必要な力」を「総合的な学習の時間」で育成することが適切であると考えられる。

(3) これまでの指導の反省から

従来本校では、「総合的な学習の時間」において、「職場体験」や「福祉体験」などの体験学習を行ってきたが、資料3に示すように、十分な取り組みができず、満足の行く成果が出なかった。

職場体験で遊んだり、説明を聞かない生徒がいて、活動後、やる気のなさを職場の方から指摘された。調べ学習では、パソコン室などで遊ぶ生徒が多く、積極的な取り組みができていなかった。報告書作成では、特定の生徒に任せるグループがあり、生徒全員の取り組みになっていなかった。

資料3 昨年度までの生徒の姿
そこで、昨年度までの課題を整理した。

生徒自身に学習に対する課題を発見させることができていなかった。
生徒のニーズに応える学習内容の展開ができていなかった。
生徒自らが「調べたい」、「調べなくてはならない」、「知っておく必要がある」と、考え学習を進めさせることができなかった。

資料4 昨年度までの課題

資料4にあるように、昨年度まで生徒たちに積極性が見られなかったのは「意志ある学び」になっていなかったと考えた。

そこで本研究では、前述した課題を克服するために、プロジェクト学習の手法を取り入れ、学習の意義を明確にしながら学習を展開していくことにした。学習内容を自らの課題として捉えることができれば「意志ある学び」を引き出すことができ、「21世紀に必要な力」を十分に引き出すことができると考えた。

3 研究の目標

21世紀に必要な力を育成するために、プロジェクト学習によるキャリア教育を行い、その有効性を究明する。

4 研究の仮説

キャリア教育を通して、プロジェクト学習の手法を用い、次のような手だてを行えば「意志ある学び」を引き出し、21世紀に必要な力を身につけさせることができるであろう。

<手だて1>

コーチングを行い、生徒自身が学習の意義を明確にしたり、自ら課題を発見できるように導いていく。

<手だて2>

ポートフォリオを作成させ、各フェーズにおいて学習の振り返りや、収集した情報を取り出し、活用できるようにしていく。

<手だて3>

学習モデルを提示し、生徒たちに課題解決への見通しを持たせ、モチベーションを継続できるようにしていく。

5 研究の実際

(1) 全体構想

総時間数75時間を5段階に分け、各フェーズにおける「身につけさせたい能力」をまとめた。また、それを「プロジェクト学習の流れ(図1)」として生徒にも提示した。

このことで生徒は、学習への見通しを立てることが容易になり、更には、この学習の目的が明確になることで、学習意欲も高まると考えた。また、学習のはじめと終わりに、マイ・キャリアプラン(人生設計)を作成させ、学習全体の評価を行った。

再構築	情報発信	まとめ	情報収集	準備・計画	フェーズ
マイ・キャリアプラン (振り返り・自己評価)	プレゼンテーション (発表会・相互評価)	製作 (グループ報告書作成)	情報リサーチ (事前学習・体験学習)	テーマ・ゴール設定	各フェーズにおける活動内容
計画力 課題発見・選択能力	計画力・実行力 表現力・コミュニケーション能力	選択能力 情報活用能力	情報収集・探索能力 実行力 コミュニケーション能力	課題発見能力 課題発見能力	各フェーズで身につけさせたい能力
			人間関係形成能力 情報活用能力	将来設計能力 意志決定能力	

図1 プロジェクトの流れ

(2) コーチングの実施

準備・計画のフェーズでは、学習全体の「テーマ」と「ゴール」を設定する。これは、「意志ある学び」を引き出す第一歩であり、とても重要な段階である。ここで最も重要視したのが、コーチングである。生徒自身が自分の考えに自信・確信がもてるよう、資料5に示したことを留意しながら導いていった。

まずは考え、意見を聴こう。
答えは生徒から導き出そう。
Yes/Noで答えられない質問をしよう。
広がっていく質問をしよう。
生徒の視点に合わせよう。

資料5 コーチングの留意点

まず、この学習の必要性を導き出すために、「なぜ？」という質問から入り問題提起していった。「将来必要。」という、生徒の単純な答えに対して、「なぜ、将来必要なの？」と、より深く考えさせるために、問い返しを繰り返し行い、自らの考えを確立して行くようコーチングを行った。「自分の夢をかなえるために必要。」という考えが出たところで、社会の情勢に目を向かせた。そこでノートやフリーター、リストラ、高校中退者の増加といった様々な社会問題が生徒から挙げられ、「このままでは夢が果たせない！」「どうすればいいのだろう？」などの声が多く出た。ここで、この学習が自分自身の課題であることに気づかせ、学習の必要性を実感させることができた。

続けて、「それでは、どうしたらいいの？」という質問を行い、課題解決のための方法を考えさせた。「勉強する。」「将来について真剣に考える。」「夢、目標を持つ。」という考えが出された。そのためには、何が必要かを考えさせ、まずは、多くの情報が必要であることに気づかせ、昨年度よりも、中身のある報告書を作成することへとつなげ、課題の共有を図った。

こうして決定したのが、学習のテーマ、「みんなが望む仕事につけるよう、夢がかなえられるようにしよう！」である。そしてゴールは、「**瀬田中学校ハローワーク2年生バージョン(Future map)**をつくろう！」である。

このようにコーチングにより、生徒自らとしての課題を発見させ、自分の意志で学習しようとする「意志ある学び」をスタートさせることができた。

(3) ポートフォリオの活用

生徒たちは全てのフェーズにおいてポートフォリオを作成した。ここでは資料6に示すことを留意しながら支援を行った。ポートフォリオは、まとめのフェーズにおいて大きな力を発揮した。事前学習で調べた内容や、企画書、質問内容、職場で感じたこと、パンフレットなど、豊富な資料がファイルされているので、その中から情報を選択し、必要な部

分だけを活用できた。日付やその時の感想なども記入しているため、Future map作成時は効率よく集約できた。また、写真の活用などによりビジュアル的にも内容が濃くなった。

調べ学習の内容や、体験学習の報告書、資料、パンフレット、などもファイルし、記録を残していかせる。
日付、出典、気づいたこと、感想、自分の考えなども書かせる。
ポートフォリオを見ると、自分の活動や成長が一目でわかるので、自分たちの振り返り学習や、まとめの学習などにも充分活用させていく。

資料6 ポートフォリオ作成の留意点

Future mapの作成では、枚数を制限し、そのことで情報の精選を促した。また、課題解決のためのキーワードが入っているか確認させ、情報活用能力の育成を図った。ここで言うキーワードとは、テーマ設定時に生徒たちが考えた、様々な職業の資格や魅力・生きがいなどに関する言葉である。このような活動を通して、充実したFuture mapの作成ができた。

(4) モデルの提示

情報発信のフェーズではプレゼンテーションを行った。「どのようにすれば良いプレゼンテーションができるか。」を考えさせた。具体的には、教師がプレゼンテーションを実演し、そこから自分たちなら、どういうプレゼンテーションにしていくか考えさせた。

まず、問題点を多く含んだ実演(モデル1)を行った。声が小さく、役割分担も、資料の準備もできていない状態でのプレゼンテーションであった。これは、生徒の課題発見能力の育成をねらいとした。生徒たちから問題点をどんどん出させ、さらに、プレゼンテーション成功の「秘けつ」をチームで意見交流させた。図2参照。

次に、生徒たちの考えを取り入れた実演(モデル2)を行い、自分たちが考えた「秘けつ」が有効であることを実感させた。そのことにより、生徒自身が自分達の活動に見通しを立て、活動を進めることができた。図3参照。

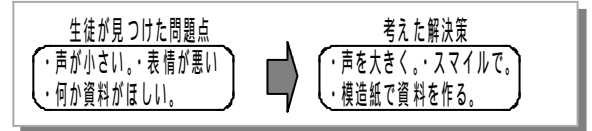


図2 生徒が見つけた課題と解決策

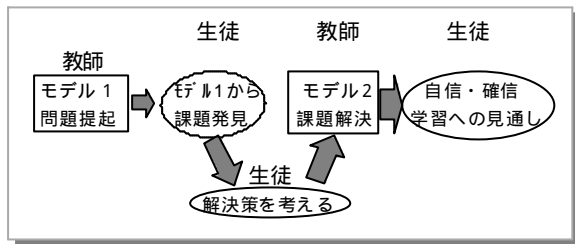


図3 モデル提示による生徒の活動の流れ

(5) マイ・キャリアプランの作成

「準備・計画のフェーズ」及び「再構築のフェーズ」では、生徒は現在の夢や目標について考え、それをマイ・キャリアプランとしてまとめた。準備・計画のフェーズで作成するマイ・キャリアプランにおいて、「自分自身の具体的な夢や目標」について記述することができた生徒は63%であった。しかし再構築のフェーズでは85%の生徒がマイ・キャリアプランに自分自身の具体的な夢や目標を記述することができた。(表1)

また、マイ・キャリアプランの作成において、それまでの学習を振り返らせたところ生徒は自らの成長を実感していた。(表2)

表1 マイ・キャリアプラン との比較 (私の夢・目標は?)

	(プラン)	(プラン)
・具体的な夢、目標を持っている	63%	85%
・漠然とした夢、目標を持っている	20%	15%
・特にない(未記入)	17%	0%

表2 マイ・キャリアプランの結果 (どんな力が身についたと思いますか?)

(生徒が身についたと思った力)	(21世紀に必要な力)
将来設計・計画力	将来設計能力
行動力	将来設計能力
判断力	意志決定能力
時間を有効に使う力	将来設計能力
協力する力	人間関係形成能力
夢に向かって努力する力	将来設計能力
職業の知識	情報活用能力
勉強するぞという思い	意志決定能力

6 成果と課題

(1) 学習の成果

「テーマ」、「ゴール」設定の場面で、コーチングを実施したことで、生徒自身の意志で学習する「意志ある学び」をスタートさせることができた。このことは、課題発見能力、課題解決能力などの意志決定能力の育成につながったと考える。

ポートフォリオを活用することにより、生徒は各フェーズにおける課題を解決すること

ができた。ポートフォリオはプロジェクト学習において有効であることがわかった。また、生徒は、作成の留意点を提示したことで、充実した Future map の作成ができた。ポートフォリオは情報収集能力、情報探索能力、情報活用能力の育成につながったと考える。

モデルの提示では、教師の実演から生徒自らが問題を発見し、解決策として、より良いプレゼンテーションのための「成功の秘けつ」を自ら見いだすことができた。このことは課題解決能力の育成につながったと考える。また、より良いプレゼンテーションを作成できたことは、豊かな表現力やコミュニケーション能力などの人間関係形成能力の育成につながったと考える。

学習のまとめのマイ・キャリアプランでは、表1に示すように将来の夢や目標が書けなかった生徒が具体的な目標を持つことができていた。また、表2に示すように、全ての生徒が何らかの形で自分の成長を感じることができた。これは、プロジェクト学習の手法を取り入れたキャリア教育を展開できたことが、要因であると考えられる。

以上のことから、プロジェクト学習によるキャリア教育が「21世紀に必要な力」を育成するために、効果があったと考える。

(2) 今後の課題

マイ・キャリアプランでは、15%の生徒が、漠然とした夢しか持てていない。今後、プロジェクト学習の展開を工夫し、全ての生徒から「意志ある学び」を引き出し「21世紀に必要な力」を身につけさせていきたい。

7 参考文献・研修

- ・キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書-児童生徒一人一人の勤労観職業観を育てるために-
- ・鈴木敏恵『意志ある学び 未来教育2総合的な学習/プロジェクト学習ポートフォリオ解説書』教育同人社2003年
- ・鈴木敏恵『こうだったのか!!ポートフォリオ』学習研究社2002年
- ・平成16年度「体験活動の円滑な実施を促進するための指導者の養成を目的とした研修」
講師 千葉大学講師 鈴木 敏恵氏
- ・平成17年度組織マネジメントの発想を生かした学年経営講座 組織マネジメントを促進するコミュニケーション
~コーチング~ 講師 福山大学非常勤講師 曾余田 順子氏
講師 広島大学大学院助教授 曾余田 浩史氏